

お母さんの笑顔をみたい

一新小学校

五年 清田 結夢

夕方学校から帰ってきたら
元気におかえりなさいと言ってくれるのに
今日は返事が返ってこない
中に入ってみると
お母さんがソファーに寝込んでいた
熱が出たと弱った声で言ってきた
私は心がざわざわした
お母さんがマスクをして
料理をしている
私は何も言わず
洗濯物をたたむ
辛そうなお母さんに
私は満面の笑顔で
洗濯物たたんでおいたよと言うと
今日一番の笑顔で
ありがとうと言ってくれた
お母さんの役にたてたかな

（第三十五回入賞作品）

うちのおねぼうお母さん

隈府小学校

五年 大村 梨紗

母はつかれているのか
すぐねる

どこにでもねる

「お母さん」

と言っても起きない

「おかーさん」

とほほをたたいても起きない

もーなんで起きないの

でも幸せそうな顔

まるでねこさんみたい

いつもお仕事

ありがとね

私のゆめ

今津小学校

五年 山本 紗己

私のゆめは
かいごしになること

かいごしは

私のお母さんがしている仕事だ
何回か

お母さんの仕事について行った

お母さんは

おじいちゃんおばあちゃんを

おふろにいれたり

ごはんを食べるお手伝いをしていた
とても大変そうだった

だけど

お母さんの顔は

生き生きしていた

どうしてかな とふしぎだった

私もおじいちゃんと一緒に

「赤とんぼ」を歌った

なるほど・・・

お母さんは

おじいちゃんおばあちゃんから
元気をもらっているんだ！

大変な仕事だけど

自分も元気になる

お母さんのような

かいごしになりたい

ごはんがうまい

白山小学校

五年 福満 健人

お母さんが作るごはんは
全部うまい

昨日は もずくのスープがうまかった
運動会の時の おべん当もうまかった
食べすぎて あまり走れなかった

ごはんがうまい

ぼくが悪い事をしておこられた日の

ごはんもうまい

本当は

「食べない！」

と言ってやりたいけど

いつも食べてしまう

今日もごはんがうまい

お母さんのシワ

飽田西小学校

六年 高橋 美紅

私のお母さんはよく笑う

近くに寄れば私も笑顔になる

この前 お母さんがニコニコしていた

近くに寄るとお母さんは

ケイタイ電話の中の

お兄ちゃんの小さい頃の写真を見ていた

お兄ちゃん かわいいね 小さいねって言うと

お兄ちゃん もうすぐ 二十歳 になるよ

成人っていつて

もうすぐ大人の仲間入りって教えてくれた

だから私はお母さんも

お母さん歴二十歳だねって言ったら

お母さんは目を細めて笑った

その笑った目にはシワが寄っていた

お母さん 二十年前と比べると

シワが増えたねって言ったら

お母さんは言った

お母さんの目のシワは

お兄ちゃん お姉ちゃん

そしてあなたからもらった幸せの数

ぷくぷくしているのは幸せ太りって言って

また目を細めて笑った

お母さん 今また一つ幸せが増えたねって

また一緒に笑った

これからもずっとお母さんの隣で

シワの数を数えたい

家族の幸せの数だから

(第三十五回入賞作品)

月曜日の朝

城東小学校

六年 後藤 文

「今日は何の日だー。燃えるゴミの日かー。」

かがみながら

ゴミ出しカレンダーを

見ているお父さん

「パカッ」

「くっせっ。」

毎週 聞こえてくる

お父さんの大きな独り言

「おいっ。だれだ。プラ入れたやつはー。」

「お姉ちゃんじゃないとー。」

「私じゃないしー。」

最近お父さんは

ゴミの分別にはまっている

「はい はい。」

と ゴミを出す準備をしてくれるのは

お母さん

そして最後に お母さんから

ゴミぶくろのバトンを

うけとる お父さん

毎日

毎日

ゴミ出しから会話が

生まれる

ゴミってーこ

ゴミぶくろもーまいだけど

その一つから

後藤家には

幸せがうまれる

私もだよ お父さん

古町小学校

六年 豊永 りな

運動会の親子競技

お父さんは私に

思いを叫ぼうと

決めていたらしい

お父さん

朝から念入りに鏡を見る

「だいじようぶかな。だいじようぶかな。」

お母さんはわらっていた

親子競技開始

次の人が終われば私とお父さんの番

お父さんが叫んだ

「生まれてきてくれてありがとう。」

愛してるよー。」

死ぬほど恥ずかしいよ

ほおがカッと熱くなった

お父さんは私をおんぶして

ゴールまで走った

ひさしぶりのお父さんの背中に

私も小さく叫んだ

「私もだよ、

お父さん。」